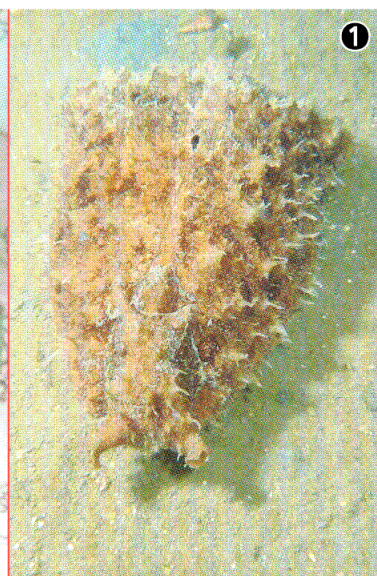
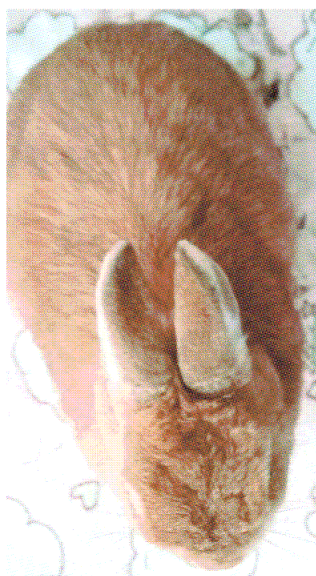
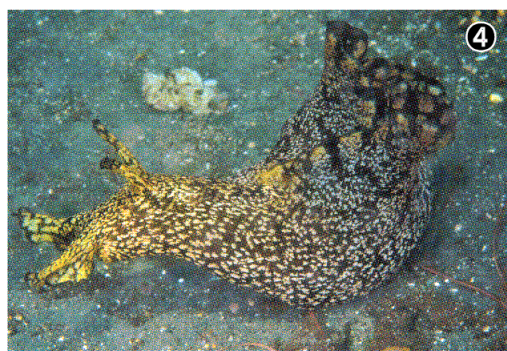
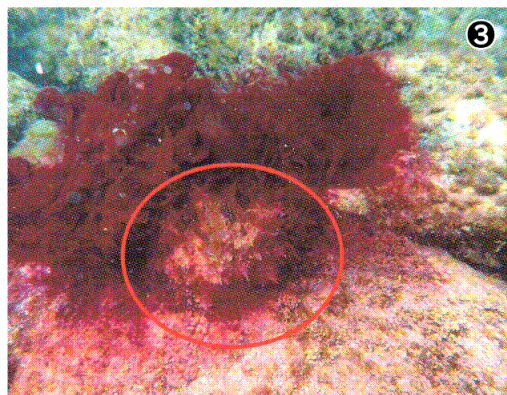


①左がアナウサギ（カイウサギ）、右が
 タツナミガイ②浮世絵で海面が波立つ時
 の図柄（左）に似ていることから名がつ
 いた、タツナミガイの貝殻③背側から紫
 色の汁を吹き出すタツナミガイ（丸で囲
 んだ部分）④アメフラシ



タツナミガイはアメフラシという
 巻き貝の仲間、大きくくりでは
 タコやイカを含む軟体動物の仲間
 です。巻き貝の仲間とは異なるもの、
 外から見る限り貝殻はついていま
 せん。貝殻は退化して、体の内側に
 わずかに残っているだけです。
 タツナミガイに貝殻があること
 は、江戸時代後期ごろには広く知ら
 れており、波が立っているように見
 える貝殻の形から名前が付いたよ
 うです。日中は浅い海底の岩の間
 でじっとしていることが多く、まる
 で岩の一部のように見えます。夜に
 動き出すと、2本の触角と体形は
 ウサギのように見え、実際に英名で



タツナミガイ 不思議な姿 人間にも恩恵

は「Sea Hare」（海のノウ
 サギ）、中国語名でも「海兔（うみ
 うさぎ）」という呼び方があります。
 主に海藻などを食べ、強く刺激され
 ると、背中から紫色の汁を煙幕の
 ように吹き出して身を守ります。
 実は私たちの生活に密接に関わ
 りがある生き物でもあります。抗が
 菌剤などとして利用されているので
 す。1990年代から、アメフラシ
 の仲間たちの体の中にある物質に
 ついて研究が盛んに進められてき
 ました。現在では、タツナミガイ由
 来成分の「ソブリドチン」が抗がん
 剤として知られています。また最新
 の研究では、紫色の汁が、養殖
 魚の細菌性感染症に有効な可能性
 もでてきました。
 私たち人間は、この岩のような
 ウサギのような生き物からいろいろ
 な恩恵を受けているのです。ぜひ、
 不思議な「恩人」の姿を見に来て
 くださいね。
 （海獣展示係獣医師・濱野剛久）